

自然のめぐみに感謝し、人と自然がともに生きるまち、熊本を、みんなで実現する



概要版 第2次
熊本市
Kumamoto City
生物多様性戦略

第2次熊本市生物多様性戦略「概要版」
発行元：熊本市環境局環境推進部環境政策課 TEL.096-328-2427

この戦略は、生物多様性を保全し、
将来にわたってそのめぐみを受け続けていくことに向けた、
市民、市民活動団体、事業者、行政等、
熊本市の全ての主体の行動の指針となる基本的な計画です。
熊本市は、様々な主体が連携・協働して、
生物多様性の保全と持続可能な利用に向けて取り組むことを推進し、
市民一人ひとりが行動することで、人と自然が共生し、
魅力と活力ある社会の構築を目指します。



www.city.kumamoto.jp/

※もっと詳しく知りたい方は「第2次 熊本市生物多様性戦略」をご覧ください。



令和7年3月発行

熊本市

熊本市の生物多様性の特徴



水のめぐみ



農のめぐみ



海のめぐみ

〈周辺地域のつながり〉熊本市は、日本一の広大な干潟を有する「有明海」、世界最大級のカルデラを有する「阿蘇山」、そして「九州中央山地」の間に位置しています。阿蘇山を源流とする「白川」、九州中央山地を源流とする「緑川」は、市内を流れ、有明海に注いでいます。これらの河川は、上流域の森林や草原などから流れ出し、中下流域に広がる水田や水路を潤し、海の生物に必要な栄養塩を海に運ぶことで豊かな有明海を支え、森・里・海をつなぐ役割を担っています。また、阿蘇地域や白川中流域に降り注いだ雨水が、地下に浸み込み、地中でろ過されながら熊本市内に流れ、豊かな地下水をもたらしています。

〈熊本市の生物多様性のめぐみ〉熊本市の誇る「地下水」や「農作物」、「海産物」も生物多様性のめぐみのひとつです。特に、先人たちのたゆまぬ努力により引き継がれた地下水は、74万人市民の水道水源の全てを賄っており、熊本市は世界でも希少な「地下水都市」と呼ばれています。

このように私たちの豊かな暮らしは、多様な生物とそのつながりである「生物多様性」に支えられています。

身近な自然を守る

私たちが暮らしている地域に目を向けると、神社などに残されている林、湧水や小さな水路、小川、街中の公園など、実は身近なところにも自然が残されています。自分の身近にある自然に目を向けて、その現状を知り、自分にできる小さなことから行動を始めることも大切です。

みんなで未来に残したい熊本市の自然環境

市内の生物の生息・生育域や生態系のつながりを保つ上で重要な場所であり、古くから市民に親しまれ大切にされてきた以下の6箇所を「みんなで未来に残したい熊本市の自然環境」に選定し、市民・市民活動団体・事業者などと連携しながら重点的に対策を行います。



1 熊本市の山の象徴「金峰山系」



2 市街地の森の拠点「立田山」



3 南部の森の拠点「雁回山（木原山）」



4 地下水都市の象徴「水前寺・江津湖」



5 森・里・海をつなぐ「白川・緑川」



6 広大な干潟が生物を育む「有明海」



このままでは将来の世代に生物多様性のめぐみを引き継いでいくことができなくなる

熊本市の生物多様性は、自然環境の基盤と人々の営みの歴史の上に成り立っています。

しかしながら、生物多様性との関係が希薄になったことで「生物多様性の4つの危機」に見られるように、地下水の量や特産物が減少し、荒れた農地や外来種が増加し、気候変動による生態系への影響が懸念されるなど、私たちの暮らしを支えている生物多様性は危機的状況にあります。



[熊本市の現状と課題]

熊本市の基本理念と2030年までの目標



生物多様性の危機的な状況は、世界規模の課題となっています。世界では、2050年目標である「自然と共生する社会」を実現するために、2030年目標として「自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとる」という「ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現」が掲げられました(令和4年(2022年))。それを受けて日本では「生物多様性国家戦略2023-2030」、熊本県では「生物多様性熊本戦略2030」が策定され(令和5年(2023年))、熊本市においても、令和6年(2024年)に「第2次熊本市生物多様性戦略」を策定しました。

本戦略では、「自然のめぐみに感謝し、人と自然がともに生きるまち、熊本を、みんなで実現する」を基本理念として、自然と共生する熊本市が目指す2050年の望ましい姿を具体的にイメージしました。さらに、自然と共生する熊本市を実現していくため、熊本の魅力である清らかな地下水や、豊かな緑といった生物多様性のめぐみを持続可能なものとするために、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる『熊本市版ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現』を2030年までの短期目標としています。

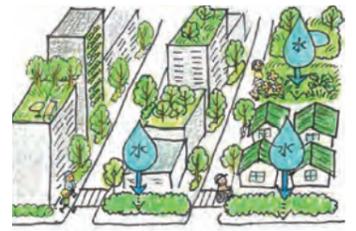
熊本市が目指す2050年の望ましい姿

<p>市街地や住宅地など 地域で大切にされてきたお寺や神社、古くから残されてきた樹林や巨木など身近な自然が受け継がれているだけでなく、公園や学校、事業所、庭、街路樹などとともに、豊かな緑のつながりが創り出され、「森の都」を思わせる街並みが広がっています。</p>	<p>里地里山や田園地域 作物が豊かに実り、竹林などは利用されながら、適切に管理され、様々な生物が育まれるとともに、美しい景観が形成されています。また、イノシシなどの野生鳥獣が適切に管理されています。</p>	<p>湧水や河川などの水辺 トンボ類や魚類などの多様な生物が生息し、生物が自由に移動できるつながりが形成され、豊かな湧水とともに大切にされています。子どもたちは生物にふれたり、水遊びをしたりしています。こうした地域の自然とそれに根ざした歴史・文化を活かした地域づくりが浸透しています。</p>
<p>経済・社会 環境に配慮したものとなり、生態系の維持と経済・社会活動の両立が図られています。さらに、生物多様性の持続可能な利用を考慮した事業活動が行われることで、経済と環境の好循環が生み出され、地域が活性化し、将来にわたって生物多様性に富んだ環境を守る取組を支えています。</p>	<p>市民 身近な自然や生物を季節の変化とともに感じています。都市でありながら豊かな自然環境とそのめぐみにあふれた熊本市で、人々は四季折々の祭りや行事、地域でとれた旬の食べ物などを楽しんでいます。そして、人と人、人と自然がつながりあい、いきいきとした心豊かな暮らしが営まれ、そうした「熊本」の姿が魅力的なものとして輝いています。</p>	



生物多様性に配慮した社会経済活動が広がり、生物多様性のめぐみを将来の世代に引き継いでいる

豊かな緑のつながりが創り出され、「森の都」を思わせる街並みが広がり、野生動物との距離が適切に保たれ、子どもたちは生物にふれたり、水遊びをしたりしています。地域の自然とそれに根ざした歴史・文化を活かした地域づくりが浸透し、経済・社会は環境に配慮したものとなり、熊本市に関わる全ての人たちが一体となって、人と人、人と自然がつながりあい、生態系の維持と経済・社会活動の両立が図られ、いきいきとした心豊かな暮らしが営まれています。



市街地における緑地の増加、地下水かん養域の拡大



[熊本市が目指す2050年の望ましい姿]

[基本戦略と行動計画]

望ましい姿の実現に向けた基本戦略と行動計画

2030年目標の達成、2050年の自然共生社会の実現を達成していくために、本戦略は私たちの生活に欠かせない生物多様性の保全について、**生物多様性を「知る」「学び・つながる」「守る」「創る」「活かす」の5つを基本戦略**としました。また、生物多様性の保全について関心をもってもらうきっかけとするため、身近で関心の高い「地下水」に関連する取組をリーディングプロジェクトとして位置づけます。

リーディングプロジェクト 地下水に関連する取組	1 基本戦略 生物多様性を「知る」 恵まれた地下水について知る	2 基本戦略 生物多様性を「学び・つながる」 地下水について学ぶ機会を持つ	3 基本戦略 生物多様性を「守る」 良質な地下水を保全する	4 基本戦略 生物多様性を「創る」 豊富な地下水を育む	5 基本戦略 生物多様性を「活かす」 地下水の魅力を発信する
状態目標 5つの基本戦略ごとのあるべき姿	<ol style="list-style-type: none"> 熊本市の恵まれた自然環境について知っている 生物多様性について理解している 	<ol style="list-style-type: none"> 生物多様性について正しく学ぶ環境が整っている 生物多様性の保全推進に向けた取組が活動団体等と連携して実施されている 	<ol style="list-style-type: none"> 生物が十分に生息・生育できる自然環境が保全されている 地球温暖化が防止されている 	<ol style="list-style-type: none"> 生物の生息・生育地となる緑地が創出されている 健全な生態系が回復している 	<ol style="list-style-type: none"> 熊本市の地域特性を活かしたプレゼンスが強化されている 生物多様性のめぐみが社会課題解決に活用されている (NbS)
行動目標 状態目標を達成するために必要な行動	<ol style="list-style-type: none"> 熊本市の生態系や守るべき自然を把握する 絶滅の危機にある種および生息・生育地を把握する ICTを活用した情報収集や分析を行う 生物多様性について知る 企業による生物多様性に関する情報開示を推進する 	<ol style="list-style-type: none"> 持続可能な開発のための教育(ESD)を推進する 生物多様性に配慮した商品やサービスについて普及啓発する 持続可能な生産・消費にすため食品ロス削減の普及啓発をする 連携基盤であるプラットフォームを活用する 様々な主体と連携した取組を進める 	<ol style="list-style-type: none"> 絶滅危惧種を保全する取組を実施する 健全な生態系を保全する 人と野生動物との適切な距離を保つ 環境への影響を考慮した開発事業を推進する 脱炭素化を推進する 	<ol style="list-style-type: none"> 生態系に配慮した緑を創出する ESG 債など民間資金を活用する 在来種・希少種を増やす 生態系や自然環境に配慮した整備を推進する 	<ol style="list-style-type: none"> 地域特性を活かした魅力を発信する 地域特性を活かしたまちづくりを推進する 歴史や文化を活かした観光まちづくりを推進する バイオマスの活用を推進する グリーンインフラや Eco-DRR (生態系を活用した 防災・減災) を推進する
成果指標 2030年の具体的な指標	水や酸素、食料や地域特有の文化などが、生物多様性からもたらされたものを知っている人の割合 32%	生物多様性について学んだことがある人の割合 32%	緑被率(維持) 32.8% 熊本連携中枢都市圏全体の温室効果ガス排出量の削減率 40%以上	地下水人工かん養量(年間) 3,000万m³ 緑被率(維持) 32.8%	生物多様性のめぐみである熊本の水(地下水)を誇りに思っている市民の割合 100%

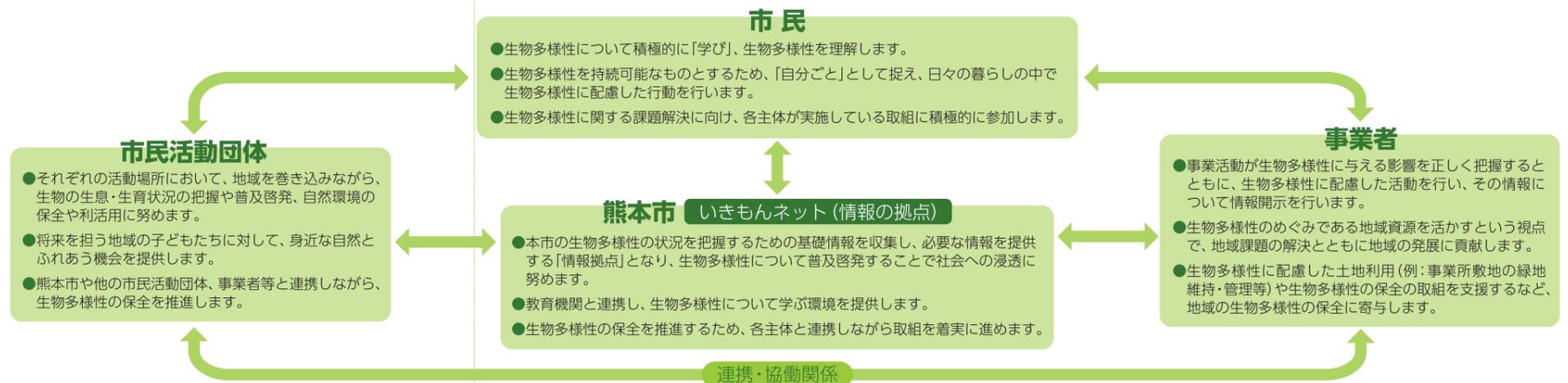


2030年までの目標
熊本の魅力である清らかな地下水や、豊かな緑といった生物多様性のめぐみを持続可能なものとするために、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる『熊本市版ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現』

各主体に期待される役割

熊本市の生物多様性のめぐみを持続可能なものとするためには、熊本市に関わる全ての人たちが、相互に連携、協働しながら、普段の生活や企業活動において、できるところから生物多様性に配慮した行動を行っていくことが大切です。

ここでは、この戦略を着実に進めていくために、それぞれの主体に期待される役割を整理しています。



[基本戦略の取組]

望ましい姿の実現に向けた5つの戦略の取組

熊本市では、市民、市民活動団体、事業者と連携しながら、5つの基本戦略に基づいて、2030年目標の達成に向けた取組を進めています。

1 基本戦略
生物多様性を「知る」

熊本市には清らかな地下水や豊かな緑などの恵まれた自然環境があり、先人たちのたゆまぬ努力により受け継がれてきました。また、私たちの暮らしは、生活に欠かせない水や酸素など、生物多様性のめぐみで成り立っていることを理解することが重要ですが、生物多様性という言葉の意味が十分に浸透しているとは言えません。

基本戦略1では、この恵まれた自然環境と生物多様性のめぐみを次世代に引き継ぐため、身近にある自然環境の把握に努めるとともに、生物多様性の理解を深めます。

2 基本戦略
生物多様性を「学び・つながる」

生物多様性は私たちの暮らしの基盤であり、人々の社会活動や経済活動は生物多様性に支えられています。

基本戦略2では、生物多様性に関する理解を深め、正しい知識の習得を推進し、生物多様性に関する教育や自然体験学習などの機会拡充を図ることで、一人一人の行動変容につなげていきます。また、生物多様性の保全のため、市民、市民活動団体、事業者及び行政など、様々な主体と連携した取組を推進します。

3 基本戦略
生物多様性を「守る」

熊本市には様々な場所に絶滅危惧種が生息・生育しており、生息・生育地の保全に努めることが重要です。

基本戦略3では、絶滅危惧種の生息域外保全に取り組むほか、絶滅危惧種だけでなく様々な生物の生息・生育地となる多様な環境の保全に努めます。また、地球温暖化による生息地の縮小や劣化を引き起こす原因とされる温室効果ガスの削減に向け、再生可能エネルギーの利用および省エネルギーの推進に取り組みます。

4 基本戦略
生物多様性を「創る」

生物多様性は、過去に類を見ない速さで損失を続けています。

基本戦略4では、生物の生息・生育地となる緑地を創出するほか、民間資金を活用した緑化の推進に取り組みます。また、健全な生態系を回復させるため、公園、河川、道路等において、できるだけ生物多様性に配慮した整備や再整備、管理に取り組みます。

5 基本戦略
生物多様性を「活かす」

私たちが、将来にわたって生物多様性のめぐみを受け続けていくためには、酸素や水、食料などのほか、地域の祭りや伝統文化などの地域資源が生物多様性からもたらされたものであると認識する必要があります。

基本戦略5では、豊富な地下水や農水産物のほか伝統文化など、生物多様性のめぐみである地域資源を活かしたまちづくりや農水産業の推進、観光の振興を図っていきます。

戦略の内容

リーディングプロジェクト



繁華街での節水パレード「節水市民運動の実施」



田んぼハイスクールによる学習機会の創出



地下水質の常時監視、硝酸性窒素対策



水源かん養(水田湛水、かん養林の整備、保全)の実施「水田湛水」



豊富な地下水や農水産物を通じた国内外への魅力発信国際会議「世界水フォーラム」

具体的な取組

出前講座等の普及啓発の実施
生物多様性に関する出前講座を開催

指標種モニタリングの実施
市民参加型モニタリング調査「熊本市セミ調査」

絶滅危惧種や希少種調査の実施
希少生物調査

- くまもと水検定の実施や副読本を活用した教育
- ICTを活用した調査報告システムの実施
- 生物データベースの構築
- 企業による生物多様性に関する情報開示の推進(TNFD)

いきもんネットを活用した連携・協働の取組実施
いきもんネット登録団体と協働した自然観察会

市民活動団体と連携したイベントの実施
いきものフェアくまもと

食育の実施
小中学生を対象とした郷土料理教室

- ESD 人材の育成
- ワンウェイプラスチック削減及びバイオプラスチック等の利用促進
- 「もったいない! 食べ残しゼロ運動」の推進
- 市民、活動団体、学校、企業などとの新たな連携体制づくり

絶滅危惧種の生息域外保全の実施
沖縄県宮古諸島にのみ生息するミヤコカナヘビの生息域外保全(熊本市動植物園)

特定外来生物の駆除
特定外来生物の防除(アライグマ)

緑地・森林の適切な保全・管理
希少な動植物に配慮した草刈りや樹木剪定の実施(絶滅危惧種ササゴイの巣)

- 野生鳥獣による農水産物被害及び生活被害の防止
- 愛玩動物の適正飼養の推進
- 生物多様性に配慮した再生可能エネルギーの利用及び省エネルギーの推進
- 市電緑のじゅうたんの維持管理

水源かん養(水田湛水、かん養林の整備、保全)の実施
水源かん養林の整備

生態系や自然環境に配慮した河川改修
鶯川における多自然川づくりの取組

市民、事業者と協働で取り組むネオグリーンプロジェクトの推進
ネオグリーンプロジェクト(球根植付(球根投げ)の様子)

- 放置竹林対策・耕作放棄地対策への活動支援
- 自然共生サイト(日本版OECM)の取組推進
- ESG 債の促進(グリーンボンド)
- 環境保全型農業の推進

豊富な地下水や農水産物を通じた国内外への魅力発信
市民が熊本市の農水産物に触れ親しむ「地産地消フェア」

温泉や竹林などの地域資源を活用したまちづくり
植木温泉を活用した地域一体型のまちづくり(田底スカイランタン)

環境工場でのバイオマス発電や熱エネルギーの活用
ごみを燃やすときの熱エネルギーを利用するサマルリカバリー(西部環境工場)

- 熊本城や地域のお祭りといった歴史と文化の継承
- 街路樹植栽スペースの雨水貯留機能の活用
- 健全な森づくりの推進
- 地域特性を活用した観光振興